

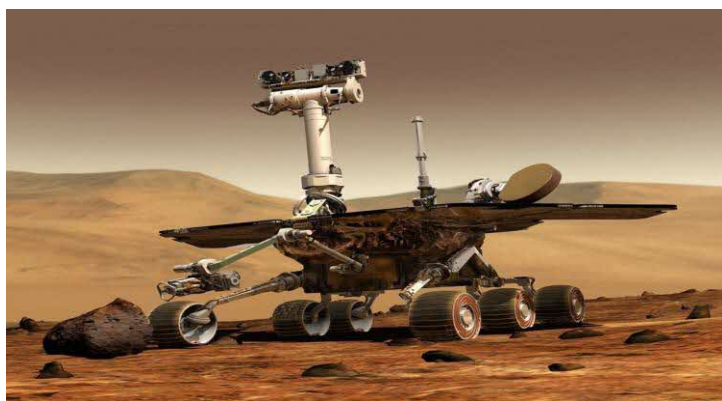
Seeding for Tomorrow 2026

半径5M から半径 ∞ へ

教育アドバイザー（フリーランス） 鈴木 晃彦

Focus 1: Fly High into the Future

火星探査機 opportunity は、当初わずか 3 か月間の火星探査が mission だった。しかし、約 15 年にわたり通信が途絶える最後の時まで赤い惑星に轍（わだち）を残し続けた。人類の未来のために…。まるで命あるものが夢を追いかけるかの如く。



<My Pep Talk>

* Pep Talk とは：短めの檄、励ましのメッセージ

自分のロマンを求めて、いよいよ君たちも半径5m から半径 ∞ の世界へと出発！ 実に快なり！

◇ハーバード大学図書館入口にある Pep Talk

1 “Sleep now and a dream will come out;

Study now and a dream will come true.”

今居眠りすれば、あなたは夢をみる。今学べば、あなたは夢が叶う。

2 “Better do it today than tomorrow.”

今日やるほうが、明日やるよりも何倍も良い。

3 “The pain of study is temporary; the pain of not study is lifelong.”

勉強に励む苦しさは今だけであり、勉強しなかった苦しさは一生続く。

4 You never lack time to study; you just lack the efforts.”

勉強するのに足りないのは時間ではない。頑張りだ。

5 “Stop walking today and you'll have to run tomorrow.”

今日歩くのを止めれば、明日からは走るしかない。

Focus 2: Living is DOING, not breathing

☆2011 年3. 11東日本大震災の手記から

中学 3 年生のひとりの女の子が家族団欒で楽しく語っていました。

「すごくいい高校なんだよ。環境も良くて先輩達も、厳しいけど本当は優しくてさ。いろんな中学校から来る同級生と緊張感もあるけど、一緒に頑張れる学校なんだ。思い切り自分をさらけ出して、もっともっと自分を変えれそうなんだ。私の夢を間違いなく叶えてくれる！だから、絶対にこの高校に入るからね。高校っていいね。合格したいな！」。

そして、希望した高校を受験。3. 11の東日本大震災により、例年より1週間遅れの3月22日の合格発表。合格した中学生達の満面の笑みと嬉し涙。歓喜の声。保護者と抱き合う姿。多くの報道関係者が群がりフラッシュをたき、シャッターを切る。テレビ局のカメラクルーとキャスターがこぞって合格した中学生にインタビューをしようとあちこちで声をかけ続ける。その日、大船渡高校と校舎が全壊した高田高校の両校の合格発表が大船渡高校で行われた。感激のシーンも終わり、報道関係者もいなくなった。静寂な夕刻に、ひとりの老婦人が尋ねてきました。

「**校長先生。孫娘がまだ見つかりません。**私が代わりに合格発表を見に来ました。合格させていただき本当に嬉しく思います。孫娘の母親は、夫と娘を津波で流され憔悴しきって動けません。それで、私が見に来ました。私が孫娘の代わりに入学手続きに来てよろしいでしょうか。」私は願いを受け入れた。後日、手続を終えて、再び校長室に挨拶にきてくれました。「まだ見つかりません。実はお願いがあります。孫娘が、恋い焦がれた高校の入学式に出たいのですが。孫娘が夢を、未来を語った高校の入学式に参列し、孫娘が戻ってきたら話してあげたいのです。」

私は涙と嗚咽でもはや声が出なかった。同席していた副校長が、「もちろんよろしいですよ。是非来てください。校長いいですよね！」と私の代弁をしてくれた。私は、ただただ頷くだけだった。4月27日入学式当日、彼女の席も準備し、担任が想いを込めて呼名をし、いるはずもない彼女が元気よく起立し、清々しく返事をし、一礼するその姿を想い描きながら壇上から視線を向け、彼女に軽く頭を下げた自分を今でも鮮明に覚えている。「ようきたね。ようきたね。大船渡高校に。待ってたよ。」と心の中で彼女に声をかけていた。保護者席で何度も何度も頭を下げている老婦人の姿も忘れられない。その後も、学校の行事があるたびに足を運んでくれた。

春が過ぎ、夏になりそして秋。一つの連絡が入った。「鈴木校長先生、おかげさまで孫娘が見つかりました。時間がかかりましたが、DNA鑑定でようやく孫娘に会うことができました。本当にありがとうございます。そして大船渡高校に入学させていただき、孫娘の夢を叶えさせていただきました。私たち家族も区切りをつける決断ができました。この先、いろいろな

苦しい時がくるかもしれませんが、前をみて、夢をもって自分の人生を送ろうとした孫娘に負けないように生きていきます。命あることのありがたみを感じて生きていきます。」と語ってくれた。その後、老婦人は退学願いを提出し、私はそれを静かに受理し、心の中で合掌した。

あの時、学校長として、生徒 700 名の命、66 名の教職員、学校に避難してきた約 400 名の地域住民の全ての命を守ること、それが今なすべきことと腹をくくりました。

それでも、震災直後からの 30 日間は、人としてのあり様、教師としてのあり様、学校長としての責務・対応力など問われる瞬間、瞬間の繰り返しであり、想定外の試練の連続でした。残念ながら生徒 3 名、保護者 13 名、教員のご家族 3 名が津波の犠牲となり命をなくしました。

被災地で生かされた者は、自暴自棄になろうとも、悲しくて途方にくれようとも、どこにぶつけたらいいか分からない怒り、憤りという負の感情を抱きながら、「生き抜いていく」しかありませんでした。被災から 30 ヶ月が経つのに、遅々として復興が進まないと思うほどのメガサイズの被災状況なのです。私たちには、もう被災者という意識は全くありません。復興者として強い気持ちを持って日々生きています。しかし、まだ一筋の光さえ見えない状況も多々あるのです。

いい国、日本を創造するには、全国の人々の「和」と「想い」が要になると思います。今一度、原点に返り、**What's our mission?**（我々の使命は何か）を自らに問い、共に生き抜いていきたいものです。これからの時間と空間こそが、「命あることを喜び、命を使うことの本物の醍醐味」を感じる時空かと思います。

是非、時間を見つけ岩手、宮城、そして「地震、津波、放射能汚染、風評被害」の 4 重苦の中、今、現在も、「もがき生き切ろう」としている福島を自らの眼（まなこ）で見てください。復興に向けて頑張っている生（なま）の声に耳を傾けてください。これからの皆様の人生観、生き方そのものを一層覚醒させるものになると確信しています。

Focus 3: Baby Steps to Giant Strides

～私のマブダチ、Y 先生の Pep Talk から～

【Topic 1】 まずは自分の学生時代の経験から話そう。

夢のような合格体験を経て私は大学のとある勉強サークルに通っていた。週に一度のサークルは教授も参加するほとんどが男子学生ばかりのまじめな勉強会で、私の足はいつしか遠のいていた。1 年が経ち、女子学生のかわいい後輩が 3 人も入会した。私はまじめに参加した。かといって、背が小さくイケメンでもない私に勝ち目はない。

ところが、3人のうちもっともかわいい（と思われる）後輩が、サークル終了後に「先輩、一緒に帰ってもいいですか」と声をかけてきたのである。それからというものの火曜日が待ち遠しくて仕方がない、バラ色の学生生活が訪れたのである。

しかし、バラ色の生活は長くは続かなかった。いつものように彼女と楽しく話をしながら歩いていると彼女がこう言うのである。「私、本当は東大に行くはずだったの。」・・・このセリフ、実は毎回出ていたのである。舞い上がっていた私には今まで聞こえていなかっただけのこと。そして、それから彼女も言い続けた。「わたし、本当は東大に行くはずだったの。」・・・このセリフを聞くたびに私には彼女のかわいらしさが感じられなくなり、とうとう切り出した。「ここやめて、東大受けなおせよ。」

それから彼女とは一度も口をきいていないし顔も合わせてもいない。サークルはまじめに続けたかどうか疑わしい。彼女の出身校は全国的女子高のなかで東大進学No.1といわれた東京の私立超名門女子高。だから、気持ちはわからないでもない。だが、私のように夢のような合格を体験して入学した者もいるのだ。**どんな理由があろうが、置かれたところで踏ん張るというのが最善なのではなかろうか。**ちなみに、彼女はその後も東大受験はしなかった。

【Topic 2】こんなこともあった。

山間（やまあい）で育った彼女は中学の時にアルコール中毒の父親を亡くした。周囲から母親が白眼視され、母子は遠く離れたアパート暮らしを余儀なくされた。彼女は地獄を見てきた。そういえばかつて父親の葬式にも出ずに登校してきた1年生がいる、と職員室で騒がれたのは彼女のことだったのか。彼女と知り合ったのは高校3年生の4月。理学療法か作業療法で迷い相談を受けた。第一志望は東北福祉大学。学力的にはとても届かない。関東地方などで偏差値の低い大学を探せばいくつかある。しかし、迷いながらも福祉大の志望は曲げない。猛勉強をする。**彼女の勉強のエネルギーは高い志でも偏差値でもない。「お母さんを守るため。資格を取って仕事に就く。何かあったら駆けつけられる仙台の大学。」**彼女は涙を見せない。弱音を吐かない。ついに福祉大に合格した。

そんな彼女が入学して1年目。泣きながら電話をしてきた。勉強が大変。友達が次々にやめていく。落第する。追試、追試、追試の連続、徹夜で勉強しても追いつかない。「先生、もう限界だ。」あの気丈な彼女が悲鳴をあげている。

厚生労働省はここ数年、理学療法と作業療法の国家試験の難易度を急に上げた。それまでは全国で9割合格していた国試だが、今はそう簡単には合格できない。だから大学は必死なのだ。福祉大だけが厳しいのではない。学生をいじめているわけでもない。

私が電話で言えたこと。「君ならきっと乗り越えられる。やめたからといってほかに道があるほど甘くはないぞ。」死者に鞭打たんばかりの厳しい言葉。無責任と言えは無責任。しかし、ほかに言葉が見つからない。慰めは通用しない。私が企業の社長なら、「〇〇がダメだったからこちらに変更しました。」という人は採用したくない。そんな人より第一志望の人を採用したい。**誰だってそうだろう。進路選択は一度決めたら責任を持つ。簡単には変えられない。それだけの覚悟がいるのだ。**

どんな理由があろうが、置かれたところで踏ん張るとするのが最善なのではなかろうか。

さて、彼女が4年生の時、3年ぶりの電話。「先生、飲みに行きましょう。」思いがけないデートに誘われた。「今回は4度目の実習で余裕なんだ。就職も決まりそう。」これまでの3年間、そしてこれからの夢を語り続ける彼女。デートの会話は尽きることがなかった。

先日、本校で惜しくも東北福祉大（作業療法）と東北学院大が不合格だった生徒がやってきた。2人ともこれからリベンジだそうである。彼女より落ちた彼らのほうが学力はありそうなのに…。

彼らに、この話をした。彼らは深くうつむいて無言になった。そして、「先生、この話をもっと早くしてほしかった。そしたら自分の甘さに気づけたし、もっと本気になれたのに。」と悔しがった。私は、「いや、今でいいのだ。今でなければ気付けなかったのだ。じつは君たちはこの類の話は1年生から何度も聴いている。私からだけでなく、いろんな人からいろんな場面で。ただ、気付かなかっただけなのだ。気付くだけの準備がなかったのだ。

18歳で気づけたということがすごいのだ。気付いた今が大事なのだ。ここからがスタートなのだ。」と私は彼らに言った。

【Topic 3】T高でがんばる。

私はこのT高に39年前に入学した。中学の時は学校が嫌いでよく休み、勉強もあまりしなかった。T高に入学してから努力もせずに「どうせT高だ、国公立大は無理だ。」と思っていた。今思うとずいぶんふざけた奴だった。そこに最初に火をつけたのが1年の担任の先生。「君だってがんばれば国立大学に入れるぞ。」たぶんみんなに声をかけていたのだろうが、悪い気はしなかった。でも先生に言われたくらいで生徒はそう簡単には勉強はしない。次に火をつけたのが、父親だった。「上位10位に入ったら、九州旅行をさせてやる。」勉強しろとは一度も言ったことのない親からこのセリフ。私がブルートレインにあこがれていたのをお見通しだったのだ。かくして私は未だかつてないほどの勉強をし、父親は約束を守ることとなった。

動機は不純でもこれがきっかけで、一度上がった成績が落ちるのはみっともないという見栄だけで勉強を続けていた1年生の時。次第に、わかる楽しみ、人に教える楽しみ、そして喜ばれる楽しみが増えてきた。気がつくとき少しづつ実力がついていった。先生に感謝、親に感謝、そして、母校T高に感謝である。

皆さんのなかにはT高が第一志望でなかった人、第一志望だったが勉強がたいへんで心が折れそうになっている人もいるかもしれません。しかし、**どんな理由があろうが、置かれたところで踏ん張るとするのが最善なのではなかろうか。**

<My Pep Talk>

踏ん張れば人生は必ず開けます！【雲外蒼天】

Focus 4: Think outside the Box

「頑張る人」と「頑張らない人」の明確な違い

ダイヤモンド・オンライン

● 林修先生(予備校講師・タレント)の「入試 1 カ月前」メッセージから

予備校講師でタレントの林修先生が、入試 1 カ月前に受験生に伝えることとして次のようなことを語っていた。

「あと 1 カ月、頑張る人と頑張らない人がいて、その結果として受かる人・落ちる人がいる。頑張ってる人、頑張らなくて受かる人も当然出てくる。ただ合否に関わらず、頑張らなかった人は『自分はたった 1 カ月も頑張れないのか』と思いながらこの先を過ごすことになる」

意外かもしれないが、第 1 志望に合格した人の中でも「自分は頑張った」と胸を張って言う人は少数派だ。自分の周りだと、「確かに自分はそこそこ頑張ったかもしれないが、自分より頑張っていた人を知っているので、『頑張った』と公言できるレベルではない」と言う人が多い。勉強量としては一番頑張っている浪人生ほど、「自分は浪人したから」と控えめになるケースが目立つ。

受験はもちろん個人戦だが、自分の努力を完全に隠すことは難しい。その結果、友人の「頑張ってる勉強している」という姿勢だけが目立つ。そのジレンマや悩みを深く知ることは少ないため、友人は自分より頑張っているに違いない、と思い込んでしまうのだ。

特に受験後に「自分は頑張っていない」と思い込んでしまうと、大学生活にも影響が出てくる。新たな環境において、無根拠な自信ほど役に立つものはない。全力を出せなかった負い目のようなものを感じながら新生活をスタートさせないためにも、何も考えず勉強するのは大事なこともかもしれない。

● 「とりあえず 1 カ月」が人生の転機に?!

4 月から本格的に受験勉強をする人にも、改めて第 1 志望を目指す人にも、「まるまる 1 カ月」作戦は有効だ。だが、まるまる 1 カ月朝から晩まで勉強漬けをするのが、学習効率として最適かと言われるとそうではないだろう。人間の集中力には限界があるし、適度なりフレッシュを挟むのが適切だ。

ただ、まるまる 1 カ月朝から晩まで勉強するという経験が自信になることは間違いない。その自信は、受験という山を越えた後でも生きてくるのだ。できれば直前じゃない方がいいだろう。直前期は第 2、第 3 志望の大学受験がある上に、生活リズムを崩すリスクがある。

学校の授業がない夏休みなどはどうだろうか。学習効率が悪いかもしれない、という悪魔のささやきにも、「仮にそうだとしてもまだ時間はある」と開き直ることができるし、何より結果が秋に戻ってくる。周りがだらけそうな時に頑張ってる、相対的に自分の成績をあげておけば、本番直前の自信につながる。

それでも不安ならば、今始めればいい。同じ実力や成績を持つ人の中での勝負で鍵を握るのは

自信だ。少しでも自信をつけるために、みんなが本格的に勉強していない時期にあえて集中的に勉強するのは1つの手段だ。

もちろん、そんなことを考えずとも、最初からゴールを見据えてコツコツと計画的に勉強するのが本当は一番効率的なのだろう。ただ、そんな計画を完璧にこなせる人はほとんどいない。だったら、多少むちゃくちゃでも、とりあえず目の前の課題に1カ月取り組んでみるのは、大学生活やその後の人生を考えると得策なのかもしれない。

(土田淳真)

<My Pep Talk>

「前後裁断なり！」

Focus 5: Broaden your horizons

◇とにかくやってみる “To Be 人生” のススメ

“To be or not to be” — シェイクスピアのハムレットに登場するこの単純な言葉は、人間が壁に突きあたったときに出会う悩みを表現する永遠の名台詞である。

壁に突きあたった悩みを解消する手段は何か、それはたった一つ、「やってみること」 —

“to be” だけである。うちにこもってしまうと悩みは増大する。心配事は、自分一人の心の中で増幅するのである。もし、気にかけてくれるとすれば、母親だけである。やらずに後悔するよりも、やって後悔するほうがいい。やって失敗するならば、やはりダメだったとか、責任を自分自身で負う潔さも生じるし、次善の策も講じられる。周りの援助を得られるかもしれない。

しかし、**やらずにいたら結果は何も出ないし、他人からも認められない**。頭の中で連ならない考えが堂々巡りするだけで、下手の考え休むに似たり、の状態に追いつめられる。**心は行動以外に形として表すことは不可能なのである。思っただけでは他人に理解されないのである**。どんな小さなヒントでもいいから、思い浮かんだら、それをもとにして直ちに行動にかかる。それが、悩み解消のたった一つの原理原則である。たいていの人は時間ギリギリになって、やっと仕事をする。**人間の真の愚かさは、やるべき時に何もしないことである。人間が行動するというこ**とは本当に素晴らしい。時には、奇跡のような場面を作りあげる。

(元 NHK アナウンサー 鈴木健二「壁にぶつかった時読む本」から)

<My Pep Talk>

為せば成る 為さねば成らぬ 何事も

成らぬは ひとの為さぬなりけり (上杉鷹山)

Focus 6: Everything is up to you!

自分の感受性くらい(詩人 茨木のり子 1926-2006)

ばさばさに乾いてゆく心を ひとのせいにするな みずから水やりを怠っておいて
気難しくなってきたのを 友人のせいにするな しなやかさを失ったのはどちらなのか
苛立つのを 近親のせいにはするな なにもかも下手だったのはわたくし
初心消えかかるのを 暮らしのせいにするな そもそもがひよわな志にすぎなかった
駄目なことの一切を 時代のせいにはするな わずかに光る尊厳の放棄
自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ

Focus 7: “Never say Never!” & “Just do it!”

ノーベル医学生理学賞の山中伸弥教授が、自身の研究活動を支える言葉として、「**VW**」を挙げていた。かつて、米グラッドストーン研究所に留学していた時、当時の所長に教えられたという。「**V**」は「**Vision**」(長期的な目標)の頭文字で、「**W**」は一生懸命に働くという意味の「**Work hard**」からきている。ある日、所長が研究員を集めて熱弁をふるった。「『**VW**』さえ実行すれば、きみ達は必ず成功する」。さらに、「研究者だけでなく、人生にとっても大事なものは **VW** だ」と。
(賢く生きるより辛抱強いバカになれ<朝日出版社>)

<My Pep Talk>

大きな目標を持たなければ、大成は望むべくもない。だが、鍛錬と努力がなければ、ただの絵に描いたもちである。人生はよく山登りに例えられるが、千メートル程度の山に登るつもりで、いつの間にかエベレスト級の頂上までたどり着く事が、あり得ないのと同じだ。高い標高を制覇するには、先ず、そこを目指すと決め、厳しい精進を続ける事が必要となる。